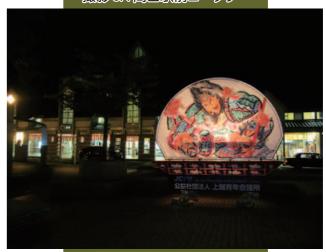




高田開府400年(2014年)松平忠輝公ねぶた山車撮影」、R高田駅前ロータリー





- ■企 画 公益社団法人上越青年会議所 2014年度郷土の誇り継承委員会
- ■協 力 上越市高田開府400年祭実行委員会 (資料提供・製作補助金)

浄土宗貞松院(資料提供。 住職お話紹介) 瑞 巌 寺(資料提供)

■製 作 公益社団法人上越青年会議所

はじめに

第 1 章

● 漫画『高田のまちを創り郷土愛に生きたヒーロー』

第 2 章

松平忠輝公図鑑

第 3 章

● 忠輝公の郷土愛とこれからの上越市

はじめに

まちの未来をつくっていく若き君たち

松平忠輝公を知っていますか

高田公園にはむかしお城があって、そこの最初のお殿様です

頭が良くて 強くて 人々に愛された殿様

上越の人々を、まちを、とっても愛した殿様

さあ現代に生きる僕たち、わたしたちも、忠輝公に負けないくらい

上越を好きになろう

上越をもっと素敵にしよう





貴語者









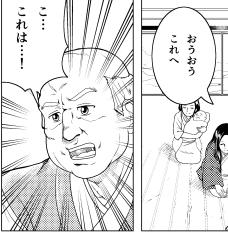


, 眠れないのです。 忠輝様?

いや…曲者だり









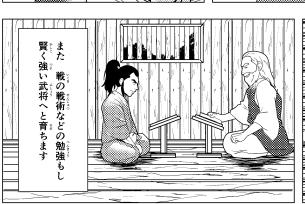
お子で

ゎ





















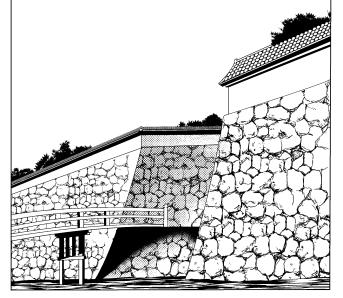


江戸城で誕生し 大正20年(1 大正20年(1 大正20年(1



高田のまちをつくりました 1614年には父・家康の命令により高田城と

高田藩は今の新潟県と長野県の一部を合わせた 76万石の大きな藩でした













傀儡子と呼ばれる 城を抜け出し

忠輝公は時折

大好きでした 食事をするのが 人たちと

なのでまちの人から 尊敬されました





そのおかげで

覚えられました イギリス語も イスパニア語も

イスパニア使節団





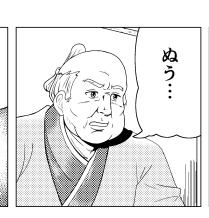
外国人宣教師は

積極的に学びました 西洋の進んだ医療を 西洋の進んだ医療を

苦しむ人々のために また忠輝は病気で











行きました

伊達政宗の家来

支倉常長が

イスパニアへは代わりに









諦めました

また。 高田藩に 高田藩に となれる となれる となっては それではできません 不利益となります





しかしもう遅い



大阪へ出陣しました

高田藩1万5千人の軍勢を率いて 忠輝も幕府の命令を受け

> 先陣を乗り打ち 待たれい!

するとは無礼で

「大阪夏の陣」が起こります

615年徳川

ど豊臣との間で

そんな中

事件が起こります



事件がございます ならば打ってつけの

二代将軍配下の

大阪夏の陣の際

これを守りました。

無益な戦に

忠輝は 遅参

遅参したり

のです

非礼を咎め

無礼討ちにしてしまっ

高田藩の藩士が将軍秀忠の家来の

のをご存知か! 戦法では切り捨てて

あまり戦闘に参加しよう

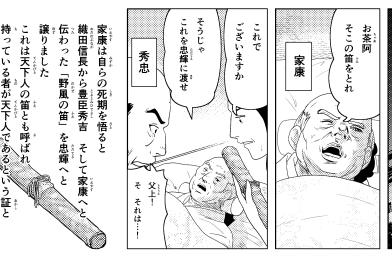
命を無駄にす

宗矩はおらぬか-





兄である将軍秀忠はこの事件を 地輝を失脚させる絶好の しかし 父・家康が忠輝をかばい 動当することで この場は はは 勘なる場合







+万もの隠れキリシタン武士・1万もの隠れキリシタン武士・1万七の隠れキリシタン・1000年に

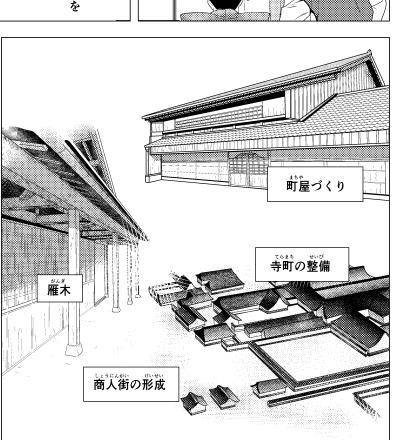
と言われていました

家康から秀忠への忠告でした 笛は 忠輝を敵に回してはなら















第2章 『松平 忠輝公』図鑑



高田藩の領土(たかだはんのりょうど)

まつだいらただてる つく たか だ はん まんごく 松平忠輝の作った高田藩は、60~75万石、

げんざい にいがたけんぜんいき ながのけんほくぶ 現在の新潟県全域と長野県北部という

ひろ ちいき あさ 広い地域を治めていました。

出典:上越市観光振興課(凸版印刷)

高田城 三重櫓(たかだじょうさんじゅうやぐら)

いま たか だ こうえん むかし たかだじょう ところ 今の高田公園は、昔、高田城があった所です たかだはん げんざい たかだ 2014年(平成26年)は、高田藩と、現在の高田の き ばん つく まちの基盤が作られてから400年になる年です。



高田開府400年祭実行委員会提供



佐渡から江戸へ金銀を運ぶ道 (さどからえどへきんぎんをはこぶみち)

たかだはん さ ときんざん と きん え ど いま とうきょうと 高田藩は佐渡金山で採れる金を江戸(今の東京都)

佐渡金山を守る大切な役目を果たしていました。

はこ たいせつ けいる たかだじょう へ運ぶための大切な経路であり、高田城は

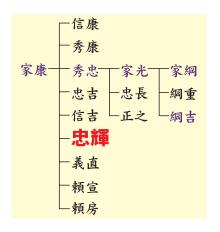
へ連心だめの人切み栓的でのり、高田城Ic

高田藩の監視役割(たかだはんのかんしやくわり)

たかだはん かがいまいしかわけん まえだけ 高田藩は、加賀(今の石川県)の前田家と、

で わ いま やまがたけん うえすぎけ とくがわばくふ たい たたか 出羽(今の山形県)の上杉家が、徳川幕府に対し戦





徳川家康の子孫(とくがわいえやすのしそん)

まつだいらただてる え どばくふ

1592年、松平忠輝は江戸幕府を作った

とくがわいえや

徳川家康の9人いる子どもの内の、6番目とな

る子どもとして生まれました。

松平 忠輝(まつだいらただてる)

たか だじょう さいしょ じょうしゅ

1614年に高田城を作り、そこに最初の城主

たか だ はん おさ

として高田藩を治めたのは、

まつだいらただてる とのさま

松平忠輝という殿様でした。



伊達正宗(だてまさむね)

いるはひめ よねざわじょうしゅ 1594年、万郎八姫は米沢城主の

だてまさむね ちょうじょ

伊達正宗の長女として生まれました。

だてまさむね ゆうめい せんごく ぶ しょう

伊達正宗は有名な戦国武将で、高田城

の建築にも携わりました。

五郎八姫(いろはひめ)

まつだいらただてる せんだい いろはひめ けっこん 松平忠輝は仙台の五郎八姫と結婚し、

とても仲の良い夫婦でした。



14

忠輝公の絵文箱と杯 (ただてるこうのえふみばことさかずき)

ただてるこう ねむ ていしょういん

● 忠輝公の眠る貞松院

6

3

 \wedge

まつだいらただてるこう す わ たかしまじょう

松平忠輝公は1683年に諏訪の高島城で92歳の はか ちか ていしょういん

生涯を閉じました。お墓は近くの貞松院

ていしょういん やま だ じゅう (長野県諏訪市)にあります。貞松院の山田ご住

ただてるこう せいよう いじゅつ まな

職さんに、「忠輝公は西洋医術を学ばれ、おこり

びょうき とっこうやく も (マラリアの一種)という病気の特効薬を持っ

ただてるこう ちょうじゅ

略無表 ≫/

貞松院所蔵

ていたそうです。忠輝公が長寿だったのは、西洋の薬学に通じていたから

とも言われ、『おこりの神』として参拝客がいらっしゃいます。父の

松平忠輝公

とくがかいえやす ただてるこう たいせつ のかぜ ふえ あた とくがわばくふ へいあん まも 徳川家康が忠輝公に大切な『野風の笛』を与えたのは、徳川幕府の平安を守 ただてるこう ちから

る為であったと思います。それほどに忠輝公のお力そしてお人柄を認めて

6

いらっしゃったのでしょう。」と語っていただきました。



0 告徳す川 今 7 の 5 信濃国川中島藩12万石にな 長沢松平家 下総国佐倉藩5万石に 高田城を築城し、 件発生参したり、家臣が秀忠の旗本の無礼坂夏の陣 達政宗の娘、 つ川 上越市の 公の **秀忠の2代将軍就任を、大阪城に報** さの に越移 れ 6 分割る国 五郎八姫と結婚 高田藩開府 朝熊 策伊 む城 気主になる でする事件が



かいふ ごばん めじょう

高田開府に創られた高田のまち

(たかだかいふにつくられたたかだのまち)

1604年の高田城築城と共に高田藩が

開府し、碁盤の目状になった道路や雁木、

くられました。また政治の中心(国府)が

たか だ うつ 直江津から高田に移されました。

たか だじょうちくじょう とも たか だ はん

いま たかだ 寺町などといった今の高田のまちが、形づ

せい じ ちゅうしんこく ふ

二代将軍 徳川秀忠 (にだいしょうぐん とくがわひでただ)

のうりょく あふ じんぼう あつ まつだいらただてる あに 能力に溢れ人望も厚かった松平忠輝は、兄であ とくがわばく ふ しょうぐん とくがわひでただ り徳川幕府2代将軍の徳川秀忠から、妬まれま とくがわいえやす しご みぶん うば した。やがて父・徳川家康の死後、身分を奪われ

> たか だ はん はな きび かんし 高田藩を離れて厳しい監視 もと せいかつ かいえき の下での生活(改易)となり

> ました。



高田開府400年祭実行委員会提供



野風の笛・乃可勢(のかぜのふえ・のかぜ)

の かぜ ふえ でんせつ 「野風の笛」伝説

どうろ がんぎ

とくがわいえやす てんか びと ふえ てんか びと あかし い徳川家康は、天下人の笛・天下人の証と言われた の かぜ ふえ ただ てるこう さず 「野風の笛」を忠輝公に授けました。笛には、吹くと

10万もの鎧武者が現れて味方をしてくれるという伝説があります。忠輝公

にも、いざという時には10万人以上の「隠れキリシタン武士」が立ち上がる いえやす ただてるこう たい

と言われていました。家康は忠輝公に対し「この笛を吹くことのないように」 ばくふ たお いくさ お

と言ったといいます。それは、「幕府を倒す戦を起こさないように」そして「い つづ ばくふ いまし つづ そんざい

つまでも怖い存在であり続け、幕府を戒め続ける存在であるように」とい しょうぐんとくがわひでただ ただてるこう ちから

うメッセージでした。またそれを知った2代将軍徳川秀忠も、忠輝公の力を の かぜ ふえ げんそん いま ただてるこう

認識したとされます。野風の笛は現存し、今は忠輝公ゆかりの諏訪の ていしょういん たいせつ ほかん

貞松院に大切に保管されています。

15 16

子に出される



忠輝公の郷土愛とこれ からの上越市 (保護者の方へ

17

本コンテンツについて

た二〇一四年に公益社団法人上越青年会議所が製作いたしました。 「松平忠輝公ヒーロー伝説~高田のまちを創り郷土愛に生きたヒーロー 〜」は、上越市が高田開府四○○年を迎えまし

成になっております。 小学生のお子様に読んでいただき、 是非ともお子様と一緒にお読みいただき、忠輝公の「郷土愛」を共感して頂きたくお願い致しま 短編の漫画や図鑑形式で松平忠輝公の生涯や魅力的な人物像を感じていただける構

平忠輝公ヒーロー伝説~高田のまちを創り郷土愛に生きたヒーロー~」をお使いいただき、 愛をお伝え頂ければと存じます。 郷土愛は、まちの歴史・文化といった特徴を生かしたまちの発展を実現し、 まちの明るい未来に繋がります。 若い次の世代に忠輝公の郷土 この「松

まちの行事やまちづくりに参画していきましょう。 そして私たち子育てをする大人世代もまた忠輝公の郷土愛を心に受け継ぎ、自分たちの住むまちを誇る気持ちを持って 本コンテンツがそんな郷土愛醸成の一助となれば幸いです。

「次世代継承へ」

統治します。 わたしたちのふるさと上越は、日本海側の海運を活かし朝鮮との交流など縄文の太古から越の国として栄えていまし 最近の研究では諏訪大社の祭神が生まれたのもこの地とわかっています。 親鸞がこの地で浄土真宗を生んだとされていますし、 戦国時代には春日山に真言宗を厚く信仰した戦国 やがて直江津に越後の国府が置かれ長く

大名上杉謙信が現れ、宗教哲学者である梅原猛先生はここを「日本の霊性」と称しまた。

参ります。高田のまちが作られた事が商人街や祭りなど多くの面でまちに変革をもたらし、 越後の国府はその後、 一六〇四年に松平忠輝公によって高田に移り、明治に入ると柏崎、 今の上越市形成の礎が築 新潟市へと県都が移って

に溢れた生きざまは、 合的に「郷土愛」と表現しましたが、将軍である兄に疎まれ時代に冷遇された一生に於いて、そのまっすぐで人間味 への友情、妻や藩民への家族愛、高田藩や藩士への愛と大変人間味に溢れた人でありました。 松平忠輝公という人物は大変ドラマチックな人生を送った人ですが、その文武にわたる才能もさることながら、 今を生きるわたしたち上越市民にとって誇るべき殿様であったと考えます。 わたしたちはそれを総

忠輝公から受け継ぐ郷土愛を継承しつつ、 らまちが立ち向かう時代の流れ、 そして、上越という地を好み忠輝公が五郎八姫と共に愛した上越の民としての血も、 いできたと考えます。梅原猛先生が日本の霊性と称した精神性あふれるこの地に住むわたしたち上越市民は、これか 上杉謙信が身をもって表現された「義」の心は、わたしたち上越市民に脈々と流れる越後人としてのDNAです。 高速交通網の発達、都会主義・一極集中の経済発展といった様々な風が吹く中で、 しっかりとわたしたちの未来を切り開いていかなくてはなりません。 わたしたちはしっかりと受け継

世代やそのまた先へとしっかり受け継ぎ、 鬼っ子忠輝公は確かにわたしたち上越市民の郷土の偉人です。忠輝公の人物像や魅力を、 共にまちへの誇りを継承して参りましょう。 そしてその郷土愛を、 次

高田開府四〇〇年(二〇一四年)

公益社団法人上越青年会議所

